

鳥取県子どもの居場所づくり推進モデル事業  
事例集

平成31年2月

鳥取県福祉保健部  
ささえあい福祉局福祉保健課

## はじめに

鳥取県では、平成27年3月に「鳥取県子どもの貧困対策推進計画」を策定し、子どもや子育て家庭の孤立を防ぎ、支え合える地域づくりを目指す子どもの居場所の推進や、将来が経済事情等の環境によって左右されることを防ぐための学習支援の推進などに取り組んでいます。

「鳥取県子どもの居場所づくり推進モデル事業」は、県内に広がりつつあったこども食堂等の居場所をさらに増やし、また居場所と行政・学校が連携することにより、困難を抱えた子どもや家庭をサポートにつなげることを目的に、平成28年度から開始しました。

本事業開始から3年が経過し、現在、2市4町において、20カ所のこども食堂等居場所で本事業に取り組んでいただいております。「外からは気づかれていない困難を抱えている子どもや家庭を把握して支え続けている」「公的な相談支援につながった」等、具体的な成果も聞かれています。

こうした事業実施の状況から、全体的な事業の効果として“経済的事情等の背景によって生じている、食生活や育児の困難を支えること”や、“さまざまな困難の中にあると見通しにくい、将来や進路の漠然とした不安に気づき、寄り添うこと”、“自らSOSを発信しにくい方のニーズを察知し、必要なときに必要なサポートを提示・誘導すること”などが見えてきますが、こうした取り組みは、行政や学校での関わりだけではむずかしく、あらためて、地域の方々との協働があって成し得ているものと感じているところです。

県としても、今後も、地域の方々や市町村とともに子どもの居場所づくりの推進に取り組んでいきたいと考えており、このたび、本事業の取組みを事例集としてまとめました。すでに居場所づくりに取り組んでいるの方々だけでなく、これから取り組もうとお考えの市町村、地域の方々にも参考にいただければ幸いです。

平成31年2月28日

鳥取県福祉保健部  
ささえあい福祉局福祉保健課

# もくじ

## 1 「鳥取県子どもの居場所づくり推進モデル事業」の概要

## 2 事例紹介

### ①居場所の取組み

- ◆鳥取市 とっとりこども食堂、きりんこども食堂、くるみ食堂・みかん食堂、寺子屋みらい、子どもとみんなの食堂、江山こども食堂、地域共生ホームてらこや、駅前すなばこども食堂、たちかわ子どもクラブ、子どもサポート「サンキッズ」、けたかくるりこども食堂、ささえあい食堂、高草ちいき食堂
- ◆岩美町 岩美こども食堂
- ◆智頭町 まんぷく食堂 えん
- ◆八頭町 のぞみおやこ食堂、寺子屋みらいこおげ
- ◆倉吉市 子ども食堂「さんさんキッチン」
- ◆南部町 法勝寺児童館こども食堂

### ②自治体の取組み

- ◆鳥取市 地域共生社会をめざすこども食堂を核とした鳥取市「地域食堂」ネットワークの取組み
- ◆智頭町 子どもの居場所を中心にした町の取組み

## 「鳥取県子どもの居場所づくり推進モデル事業」の概要

# 鳥取県の子どもの居場所への支援

## こども食堂の意義

厳しい環境にある子ども・保護者に必要な対策

- 経済的貧困への対応
- 様々な学びへの支援
- 「地域」と「子ども、保護者」のつながり、厳しい環境にある家庭の孤立の防止

◆ こども食堂は、

★ 食の提供を行う取組

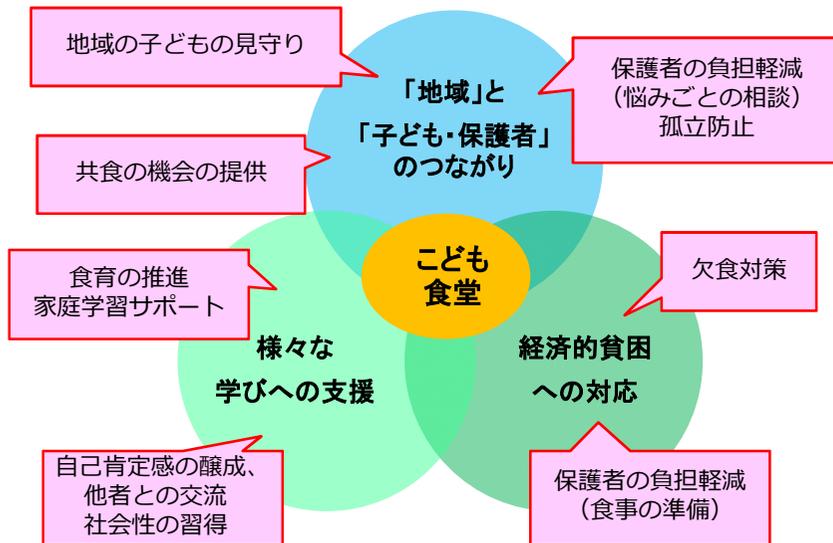
⇒ 欠食対策、保護者の負担軽減（食事の準備）、食育の推進、共食の機会の提供

★ 地域住民・団体の自主的、主体的な取組

⇒ 地域での子どもの見守り、困った時の支援、地域住民による積極的な学習支援、地域貢献の実行の場

★ 地域の大人たちや年代の異なる子どもたちが交流できる場

⇒ 自己肯定感の醸成、学校以外での他者との交流・社会性の習得、多様な人材による学習支援、地域での見守り、保護者の負担軽減（悩みごとの相談）、孤立防止、地域住民の活躍の場の提供



## 課題

- 草の根で支援を行う民間団体等は、運営基盤が弱い
  - ・ 運営経費等の負担が大きい
  - ・ スタッフ、運営費、食材の確保が困難
  - ⇒ **持続可能な活動となるような支援が必要**
- 子どもにとって身近な地域という面では、まだまだ不足
  - ・ NPO等の団体が少なく実施主体が見つからない。
  - ・ 関心のある人はいるが、活動につながらない。
  - ⇒ **開設相談やボランティア希望に対応する窓口が必要**
  - ⇒ **実施可能性のある場や団体の開拓が必要**
- 困難を抱える子どもや世帯をサポートできる居場所としての深化
  - ・ 居場所が必要な子どもが利用できているか。
  - ・ 支援が必要な家庭をどう支援につなげるか。
  - ⇒ **行政や学校との連携モデルを広めていくことが必要**

## 鳥取県の取組

### とっとり子ども未来サポートネットワーク活動支援事業

- 1 **こども食堂を増やすための開設相談支援**
  - ・ 開設に向けたアドバイス、サポート
  - ・ 食品衛生に関する研修の実施
- 2 **こども食堂同士をつなぎづくり**
  - ・ 情報交換や勉強会の開催
- 3 **こども食堂の運営をサポートする仕組みづくり**
  - ・ 食材の提供企業の開拓、提供食材の配布ネットワーク
  - ・ 寄付金の募集・配分の仕組みづくり
  - ・ 県民向けの啓発活動

### 子どもの居場所づくり推進モデル事業

#### 質・量ともに充実させるためのモデルづくり

- 実施団体が不足する地域における居場所づくり活動のモデル
- 食の提供だけでなく、孤立防止や生活・学び支援の展開による“子ども支援”の充実を居場所で行うモデル
- 居場所を拠点として、行政・学校と地域が連携するアウトリーチ支援のモデル

## 子どもの居場所づくり推進モデル事業

### ◆趣旨◆

- さまざまな困難な背景を抱える子どもたちの中には、見守り、教え導く大人の関わりが少ないことにより、不安やさみしさを抱えていたり、自己肯定感が低く自信や意欲が持てないといった子どもがいる。
- また、食生活の乱れや孤食の傾向等、家庭そのものが、時間的精神的に子どもとの時間を十分に持てなかったり、経済的な困難を抱えている、支援者がおらず孤立状況にあるといった課題を抱えていることも多い。
- このため、安全安心な居場所をつくることにより、子どもの育ちと子育て家庭を継続的に地域で支えられる取組みが必要である。

### ◆目的◆

- すべての子どもが利用できる安全安心な居場所を増やすとともに、その居場所を糸口として家庭と地域のつながりをつくることにより、子育て世帯の孤立化を防止する。
- 支援を必要としている子どもや家庭に居場所の情報を直接提供したり、居場所を糸口として家庭の支援につなげられるよう、居場所と学校・行政等の支援機関とのつながりをつくる。
- 本モデル事業の取組みを周知することにより、「こども食堂」をはじめとするさまざまな居場所における取組みの深化を図る。

### ◆事業内容◆（平成30年度時点）

生活困窮世帯等を中心にすべての世帯を対象とした子どもの居場所づくりに新たに取り組む民間団体等の立ち上げをモデル的に支援し、県内での団体の育成、取組の推進を図る。

また、取組みに賛同する団体を増やし、当該市町村や他地域での展開を目指す。

実施主体	県内で次に掲げる事業に取り組む市町村又は民間団体等
事業	休日や、平日の放課後～概ね20時以降にかけて、食事や学習、遊びやものづくり等で参加者が交流する事業の実施
利用者	小学生から18歳までの子ども(生活困窮世帯に限らない。)
補助対象	○事業立ち上げ支援(補助基準額 2,000千円)・・・備品購入費、修繕費等 ○運営費(補助基準額 2,000千円)・・・賃金、報償費、交通費、食糧費(上限有)、消耗品費、役務費、使用料賃借料、委託料
補助率	○事業立ち上げ支援 県2/3、市町村1/3 ○運営費 県1/2、市町村1/2
要件等	<p>&lt;要件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○継続した大人との関わりの中で信頼関係を構築し、安心・安全な居場所となる環境をつくる。</li> <li>○活動(学習や食事、談話、創作活動、芸術鑑賞など)を通して、生活習慣を身につけたりコミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>○安定した大人との関わりの中で、子どもの意欲や自信、自己肯定感の回復や向上を図る。</li> <li>○保護者も参加できる場を設けるなど、子どもの姿を通して保護者との関わりに努め、世帯の孤立を防止するとともに必要な支援につなげる。</li> </ul> <p>&lt;留意事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市町村や学校、児童相談所等の関係機関から紹介された子どもを積極的に受け入れるとともに、市町村や学校等との連絡会を設ける、専門家からアドバイスを受ける等により、運営や支援の充実に努める。</li> </ul>

## 【事例紹介】

### 居場所の取組み

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
特定非営利活動法人 こどもらぼ	毎週火曜日 18:00～20:00	子ども、大人	子ども無料、大人200円	有

## 【事業概要】

- ・開設時期 2015年12月
- ・毎週火曜日 18:00～20:00 鳥取市文化センター2階で開催
- ・平均利用者数 8～10人（親子、高校生、ひとり親世帯等）
- ・スタッフの状況 調理ボランティア、学生ボランティアなど常時5～6名のスタッフで運営
- ・食事内容 ボランティアが調理を担当、地域食堂ネットワークを通じた寄付、地域からの食材提供で賄っている。
- ・食事以外の活動 宿題、カードゲーム、クリスマスイベント、プロを招いてイベントなど  
市内で喫茶店を営んでいる方をお願いして、オムライスをふるまっていただきました。
- ・その他 月に1回スタッフで会議を行い、子どもへの対応や親との関わり方などについて協議。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

○調理師を招くなどのイベントを開催し、特別な体験を提供しています。

- ・可能な限り、子どもたちが調理する場面を作り、一緒に調理することで食堂に来ることを楽しみにしてくれる子も増えました。
- ・クリスマス会を開催し、お菓子つかみ取りで盛り上がりました。
- ・プロのオムライスを食べよう

○スタッフ会議で、子どもの様子を共有している。

- ・参加者の様子、参加がない子どもについて、他の利用者に話を聞くなどして、状況に変化がないかどうか可能な限り確認を取っています。
- ・特に注意が必要な利用者については、会話の中から家庭の状況を推測し、それに基づいて次にその子とどのような話をすべきかを考えます。
- ・中3、高3の子どもたちの進路について確認し、受験、進学にたいしてどのような思いを抱いているのかを共有し、不安がある場合は、それを取り除くために何ができるのかを話し合っています。

## ②成果

○利用者の様子から問題を早期に発見し、支援機関へつなげることができた。

- ・家庭での養育に大きな問題を抱えていると判断できる事象があったため、鳥取市要対協へ通告し、ケース会議に参加させていただきました。とっとり・こども食堂で得た情報を適切に利用することができたと考えています。

○利用者同士が学年や学校の枠を越えて交流する姿が見られた。

## 【課題及び今後の目標】

## ①課題 メニューの充実

## ②今後の目標 今の規模で続けていきたいと考えています。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
きりんのまち愛プロジェクト	毎月第1・3水曜日 17時～	制限なし	こども：無料 大人：200円	有り

## 【事業概要】

- ・平成28年12月開設。
- ・開催場所…岩倉地区公民館（立川町六丁目174）
- ・1回あたりの平均利用者数50名
- ・参加者の傾向…親子（保護者、小学生、園児）、地域の方）。
- ・スタッフの状況…鳥取市中央人権センター職員、主催者の友人ボランティア等（常時5名程度のスタッフで運営）。
- ・食事以外の活動…鳥取市中央図書館の協力で児童図書コーナー設置・ライブイベントなどを実施。
- ・食事提供内容…ボランティアで調理。  
食材は鳥取市地域食堂ネットワーク、山光こどもの未来応援プロジェクト、地元の方による食材提供、市助成金、寄付で対応。
- ・地域との連携…開催会場である地区公民館、地元中学校区「東中サポーターズ」の協力。
- ・その他独自の取組…年に数回ライブイベントを開催（地元出身アーティスト、東京おもちゃ美術館、外国人との食事交流等）、SNSでの情報発信。「きりんこども食堂」グループLINEによる情報提供及び参加者の情報共有。
- ・取組を行う上で大切にしていること…衛生面での注意、無理のない開催、誰でも気軽に参加出来る雰囲気づくり



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

明るい雰囲気の中で一緒に食事をするにより、参加者同士のコミュニケーションが広がっています。

## ②成果

問い合わせや視察、講演依頼も寄せられています。

## 【課題及び今後の目標】

- ①課題 学習支援ボランティアの確保。経済的に困難を抱えている方、孤食に陥っている人たちへのアプローチ、若者の参加による世代間交流。
- ②今後の目標 さらにネットワークを拡げ、継続して開催できるよう頑張りたいと思います。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
わいわい広場とっとり	くるみ食堂: 毎月第4(木)17:00~19:00 みかん食堂: 毎月第2(水)17:00~20:00 カフェ桜居: 毎月第2(木)11:30~14:00	くるみ食堂: だれでも みかん食堂: 小中高(成人まで)とその保護者 カフェ桜居: だれでも	子ども無料 大人500円	あり

## 【事業概要】

- 開設場所: 産後ケア やわらかい風 (鳥取市西品治805)
- 開設時期、1回あたりの平均利用者数
  - ・くるみ食堂…2016年12月、30人
  - ・みかん食堂…2017年7月、5人
  - ・カフェ桜居…2018年5月、20人
- スタッフの状況: 調理師、栄養士、地域の食育推進員などボランティア希望の方が多く助かっている。
- 食材について
  - 地域食堂ネットワークからの寄付、近所のパン屋さんからのパンの寄付
  - 家庭菜園の寄付など食材を提供くださる皆様多数
- 地域との連携
  - 駐車スペースが少なく困っているが、近くの歯科クリニック、近隣の方からの協力もあり助かっている。
  - ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施してもらっている。
- 独自の取り組み
  - フェイスブックページの作成。会場である助産所での広報、チラシの配布 (近くのクリーニング屋さん他)
- 取組みで大切にしていること
  - ・スタッフが楽しんでいること。家族を優先。
  - ・食中毒や事故のないようお互いに声を掛け合いながら、準備から片づけをしている。(消毒スプレーの使用)
  - ・手洗いの励行、エプロン、三角巾の使用



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

- ①アピールポイント
  - ・会場が助産所であるため、専門職のボランティアがいるので、利用される方の多くは乳幼児のお母さん (時にはお父さん) である。食事をしながら子育ての悩みや相談を受けることがある。
  - ・ボランティアに保育士、看護師がいるので託児もしており、子連れの方の居場所となりつつある。
  - ・離乳食や幼児用プレートの提供
- ②成果
  - 大勢で食事をするることにより、ママ友が出来たり、子育ての悩みをお互いに話をしたりできる。

## 【課題及び今後の目標】

- ①課題
  - ・食材やサポーターの確保
  - ・会場が手狭になってきたため会場の確保
- ②今後の目標
  - 母子支援と併せて食堂の場所がわかるようにPRしていく

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
NPO法人ワーカーズコープ	毎週水・土曜日 18:00～20:00	幼児から大人まで	こども(高校生まで)無料 大人200円	有

## 【事業概要】

- ・2016年10月に開設。1回あたりの平均利用人数6～7名（小学生、中学生、高校生） 開催場所：鳥取市湖山町西1丁目218
- ・一般の方のボランティアと学生ボランティアの協力で毎回2～3名で運営している。学生ボランティア確保の為に、現在の学生ボランティアから友達を紹介してもらい学生ボランティアが途切れないように心掛けている。特別大学の方にチラシ等を配布してはない。
- ・毎回、利用する子供達が宿題等を持ってきているので、学習支援を行っている。ハロウィンやクリスマス会などのイベントも実施している。
- ・一般のボランティアの方が調理をして、食事提供をしている。食材は、鳥取市地域食堂ネットワークやとっとり子ども未来サポートネットワークからの寄付を活用。足りないものは買い足し。
- ・利用している子どもの保護者（地域住民）から食材を提供して頂くこともあり、それを使ってメニューを考える事も多々ある。
- ・スタッフ同士の思いや絆が強く、LINEグループを作って、常に情報共有をしている。保護者との信頼関係を築いているので、時には進路相談や勉強の事など、相談を受ける時がある。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

スタッフと利用者との信頼関係を築いている

## ②成果

- ・開設して2年ほど経つが、新規の利用者は少ないものの、固定して来てくれる子ども達、その保護者からの信用を得ている。
- ・多感な時期を迎える中学生の利用者が多く、進路相談や、人生相談、悩みなどを打ち明けてくれる。
- ・1年半以上こども食堂に携わってくれているボランティアが子供たちだけではなく、保護者との関わりを持ってくれ、こども食堂開設日には必要に応じて保護者と出欠確認の為にメールなどの連絡を取り、毎回利用してくれるように働きかけている。また、迎えに来た保護者と会話を通して学校の行事等の話をきっかけにいろいろな話（進路相談）を引き出してきている。それが出来るのも大学生ボランティアが利用者と同年代に近い為、お兄さんお姉さんの存在になっていて、相談しやすい状態であると思われる。



## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

現在鳥取大学生からのボランティアが1～2名程度なので学生ボランティアを確保する事が課題。学習支援に影響が出てくる可能性。

## ②今後の目標

利用者が中学生中心で、大人の利用が少ない。高齢者の利用も含めて、多世代交流が出来るような居場所になるようにしていきたい。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
みんなの居場所「ぽっと」	毎週月～土 18:30～20:00	子ども、大人	子ども100～400円、大人100～500円	あり

## 【事業概要】

- ・基本的に、日祝日以外毎日開催（通常時は夜間、学校休業日は昼間）し、1日当たり10数名の利用者。親子（ひとり親世帯を含む）を中心とし、高齢者、中学生、独居者など多様な層が利用している。
- ・スタッフは開催場所の民家に居住し、毎日2名程度の調理ボランティアとともに、常時5名程度で事業を行っている（ボランティアは10名程度で、各ボランティアは週1～2回の頻度）。
- ・夕食の提供以外にも、放課後から夜8時までの居場所の提供、学習指導などを実施している。広い庭を活用した外遊びやボードゲーム（850種類）、おやつ作り、工作、動物（犬2頭、猫3匹）とのふれあい、マンガや絵本（計千冊超）など、子どもの個性に応じた時間を提供している。
- ・地域住民やとっとり子ども未来サポートネットワークから食材の寄付を受け、季節に応じて毎日異なるメニューを提供している。
- ・気になる子ども・家庭については、適宜専門家と相談し、支援内容について検討している。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・様々な利用形態に対応するため、毎日長時間の居場所活動を行っている。
- ・子育てサークル等のNPO団体と連携した事業を行ったり、クッキーの販売やボードゲームカフェなどの事業を同じ場所で行うことにより、様々な人が出入りする場所を提供している。
- ・子どもの抱える問題に即して、主催団体の他の活動（無料塾、ボードゲームカフェ、居場所活動ボランティア等）への参加を促したり、専門家（管理栄養士、臨床発達心理士等）に相談している。

## ②成果

- ・（長時間実施）集団では大人しい子どもが、子どもが一人になると活発になり、自分を発揮することができた。
- ・子ども関連の事業を通じて、様々な層の利用者が増えた。

## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

- ・利用者が少なくなる時期（冬季間等）の利用促進。利用者・保護者とのかかわりがその場限りになりがちである。

## ②今後の目標

- ・保護者の活躍の場を提供するとともに、年代の異なる利用者の出会いの機会を増やし、異年齢・多世代の関係づくりに取り組むこと。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
江山 子ども食堂運営委員会	毎週水曜日 16:00～20:00	原則 小・中学生	無料	あり

## 【事業概要】

- 平成29年5月に地域住民の有志12名で地域住民主体の組織として「江山 子ども食堂運営委員会」を立ち上げ。
  - ・平成29年6月より・・・中学生を対象として、毎月第4水曜日 18:00から「子ども食堂」を開催。
  - ・平成30年5月から・・・原則、小・中学生を対象として、毎週水曜日 17:00～小学生、18:00～中学生の二部制で開催し、19:00～中学生を対象とした「学習支援」を地元の有識者、鳥取大学の学生に講師を依頼し、中学校の先生と連携をとり教材を購入して実施している。（家庭の状況に応じて相談の上、幼児の参加も可能としている。）
- 会場・・・鳥取市江山人権福祉センター（鳥取市下味野1058-3）
- 利用状況・・・平成29年6月～平成30年4月までは、子ども食堂への地域住民の認識も薄く、また中学生だけを対象としていた為、利用者も10名から15名程度であったが、平成30年5月からは、地域住民へ人権福祉センターだより、「江山 子ども食堂 通信」を中学校区の全戸へ配布して「子ども食堂」への理解・支援を得られるようになり、対象も小・中学生にしたことにより、天候にも左右されるが40名～50名の参加と大幅に増えた。
- 利用者の傾向・・・数名であるが保育園児も含めて小・中学生。ひとり親世帯、核家族世帯、不規則勤務の家庭等。
- 食事以外の活動・・・園児へは、絵本の読み聞かせ。ゴム鉄砲等の工作、名前等の文字練習。中学生を対象とした学習支援。
- スタッフ等・・・地域住民ボランティア、児童館職員、人権福祉センター職員、運営委員等、常時8名前後。食材は、地域食堂ネットワークを通じての寄付による食材を活用してメニューを検討。調味料は関係機関の募金で購入。
- 地域との連携・・・校区内の地区公民館から「子ども食堂」に関する講演依頼を受け、「子ども食堂」への理解・食材提供・ボランティア等の呼びかけを行い、“地域の子どもは、地域で支え、地域で育てる”地域ぐるみの取り組みを展開。地域の関係機関へ棒金箱の設置依頼。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

- ①アピールポイント
  - ・さまざまな家庭環境により、悩みを抱えている子、満足な食事をとれない子、地域・学校で孤立している子どもに「子ども食堂」を通して寄り添いながら悩みへの相談対応・居場所を提供し、地域ぐるみで支え、支援する。
- ②成果
  - ・何気ない会話の中で、困っている子どもの悩みを引き出して相談対応することができた。
  - ・市保健センター、地域の民生児童委員が把握している困難な家庭環境にある子を「子ども食堂」への呼びかけを依頼され、その子が「子ども食堂」へ参加するようになり、毎週楽しみにしてくれている。
  - ・気になっていた子が、「子ども食堂」を通して地域・学校でも他の子ども達と一緒に仲良く、話し・遊んでいる子を見かける。

## 【課題及び今後の目標】

- ①課題
  - ・調理ボランティアとは別に、雑談の中で「困っている子」の課題を見つけ、課題解決に向けた対応の出来るボランティアの確保。
  - ・SOSの声が出せずに本当に困っている子をいかに発見するか。
- ②今後の目標
  - ・地域には外国籍の母親も増えており、日本料理の料理教室や日本語を学ぶ教室の計画を検討していきたい。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
特定非営利活動法人 桔梗会	毎週金曜日 18:00～20:00	こども、大人	子ども:無料 大人:200円	あり

## 【事業概要】

- 開催場所：デイサービスたちばな（鳥取市行徳三丁目976-2 常忍寺敷地内）
- 開設時期：平成29年12月から
- 1回あたりの平均利用者数：こども15人、大人5人
- スタッフの状況：地域ボランティア、当会職員等の協力により常時3名程度
- 食事提供内容：当会職員が調理を担当。食材は、常忍寺より寄附、鳥取市地域食堂ネットワーク等より提供されたものを使用。
- 食事以外の活動：宿題などの学習支援。絵本・紙芝居の読み聞かせ。  
季節に応じた行事やイベント（花火会、かき氷づくり、クリスマスプレゼントなど）
- 利用者とのコミュニケーションから得た意見を大切にしてイベントなどの取り組みを行っている。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

- ①アピールポイント
  - ・他校区の保護者、子ども同志の交流により、いろんな情報交換や悩み相談。
- ②成果
  - ・他校区だからこそ、話しやすい環境、意見交換がしやすい。
  - ・子ども、保護者の交流の幅が広がる。

## 【課題及び今後の目標】

- ①課題
  - ・地域の方々にもっと活動を知ってもらい協力をあおぎたい。
  - ・未就学児の対応
- ②今後の目標
  - ・学習指導に力をいれたい

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
パーソンサポートとっとり	毎週火・木曜日18時～20時	子ども・大人	子ども無料、大人200円	有り

## 【事業概要】

- ・開設時期・・・平成29年10月
- ・開催場所・・・すなば珈琲鳥取駅前店内(鳥取市永楽温泉町152)  
〈会場の都合により、平成31年1月から現在の会場で実施〉
- ・1回あたり平均利用者数・・・20名
- ・利用者の傾向・・・幼児、小学生、中学生、高校生、ひとり親世帯
- ・スタッフの状況・・・地域住民ボランティア、学生ボランティア等、中央人権福祉センター職員、パーソナルサポートセンター職員等 10名
- ・食事以外の活動・・・宿題などの学習支援、ボードゲームを活用した遊び、絵本の読み聞かせ、相談支援など
- ・食事提供内容・・・すなば珈琲が食事提供、食材は地域からの寄附、鳥取市地域食堂ネットワークを通じた寄附を活用
- ・地域との連携・・・校区内の地区公民館等にチラシを配布して地域住民に周知する。鳥取市立中央図書館からの絵本や図書の貸し出しと職員による絵本の読み聞かせを実施してもらっている。
- ・その他の取組・・・カウンセラー、栄養士、元教員、生活支援員を配置して相談支援活動を行う。
- ・取組を行う上で大切にしていること・・・利用者がまた来たいと思う。利用者もスタッフもワクワクする場となるようにする。子ども、保護者のつぶやきを大切にその内容によっては相談につなげる。  
毎回、終了後ミーティングを行いスタッフから気になったことなどの情報共有を行う。定期的に気になる利用者のことについて話し合う会議を行う。



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

カウンセラー、栄養士、元教員、行政の相談員がスタッフとして常駐して様々な相談に対応できるようにしている。相談の内容によっては、行政の相談機関につなぎ問題解決を図る。

## ②成果

何気ない会話の中から生活の変化を見つけ相談・解決につなげることができた。  
求職活動中の保護者を就職が決まるまで支えることができた。

## 【課題及び今後の目標】

①課題：子ども食堂が、安定して長く運営できるよう人・食材・運営資金の確保が必要である。行政からの支援はもちろん様々な業種の企業などとの連携が必要と考えている。

②今後の目標：イベントを開催するなどして利用者同士のつながりをつくる。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
社会福祉法人 鳥取こども学園	毎月第4木曜日 17:00～19:00	こども、大人	こども:無料、大人:100円	あり

## 【事業概要】

- ・平成29年1月25日開設。 1回あたりの平均利用者数15人、延べ192人
- ・スタッフの状況・・・鳥取こども学園職員を中心に協賛法人で運営。（現在、30名程度の職員ボランティアが登録）
- ・食事以外の活動・・・宿題などの学習支援、ボードゲーム等を通しての交流など。
- ・食事提供の内容・・・鳥取こども学園栄養士3名を中心に調理ボランティアが調理を担当。  
食材は、鳥取市地域食堂ネットワークを通じた寄付の活用。寄付された食材でメニュー検討。
- ・地域との連携・・・地域内の地区公民館で開催（1周年を機に協力を依頼している）。公民館からチラシの配布。
- ・取組を行う上で大切にしていること・・・毎月スタッフ会議を設け、振り返りや課題の検討を重ねている。  
運営内容として、「食事」「遊び」「学習」の3つの柱を立て、それぞれに法人スタッフで  
コアメンバーを決め、企画・準備物・広報等について検討する仕組みを構築している。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・地域で子どもを大切にするための「子どもと大人の楽しい居場所」となることを目指します。
- ・一対一の関わりを大切にしていきます。
- ・学習支援に力を入れていきます。
- ・専門性を活かして多様な相談にのります。

## ②成果

- ・保護者より子どもの現状や困りごとを聞くことにつながっている。
- ・宿題に意欲的に取り組む姿が見られるようになった。



## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

もっと広く多く子どもや大人に利用してもらうために、開催場所・時間の検討。地域の方のボランティアへの参加。

## ②今後の目標

地域の小中学校と情報交換を行う中で学習支援のニーズが多くある事が分かったため、学力向上の一助となるよう学習支援体制構築を目指す。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
サンキッズ子ども食堂運営委員会	第2土曜日11:30～12:30 第4土曜日11:30～13:30	子ども、保護者、兄弟姉妹 子ども、大人	子ども:無料 大人:200円	有り

## 【事業概要】

- ・開設時期：平成30年4月、1回あたりの平均利用者数：第2土曜(子ども食堂)：10人、第4土曜(地域食堂)：23人  
利用者の傾向：第2土曜：子ども、その保護者・兄弟姉妹、第4土曜：子ども、その保護者・兄弟姉妹、地域住民(高齢者、障がい者、生活困窮者を含む)、障がい者福祉事業所利用者及び職員等
- ・開設場所：「上町屋老人憩の家(みやびの家)」鳥取市国府町町屋53-2
- ・スタッフの状況…地域住民ボランティア(子どもとの遊び・ホロー、調理)や学生ボランティア(学習・遊び)、全体対応及び子ども・保護者等の相談・支援にあたるスタッフが、常時3～5名程度で実施。
- ・食事以外の活動…宿題・キッズ英語などの学習支援、遊び・クッキング・工作・読書などの自由活動。
- ・食事提供内容…地域住民のボランティアが調理を担当。食材は地域からの寄附、とっとり子ども未来サポートネットワークを通じた寄附を活用。寄附された食材でメニューを検討。
- ・地域との連携…将棋やカルタ取りなどの遊びを一緒にしたり、米・野菜などの食材提供やオカリナ等の特技を披露していただくこともある。  
地域との交流は、主に第4土曜日に実施している。
- ・その他独自の取組…民生委員を通じて学習支援事業のチラシなどを情報提供。  
年に1回、子ども・保護者との交流と地域の人や歴史に学ぶ目的で郊外研修を実施。
- ・取組を行う上で大切にしていること…子どもをはじめ利用者が、安心できる居場所づくり。



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・地域支え合いの活動として、まちづくり協議会、国府人権福祉センター、民生児童委員の理解・協力を得ながら実施。
- ・運営委員構成に専門的知識等を有する者がいることで課題等への対応が柔軟・迅速に行える。
- ・学習スタッフとして、大学生、英語の話せる社会人が常駐しています。

- ②成果
  - ・学校生活で困難さを抱えていた子が、落ち着きや関係づくりの面で成長し、クラブ活動への誘いを受け自分の居場所を見つけることができた。
  - ・保護者もボランティアとして協力を得ることができた。
  - ・閉じこもりがちな高齢者が、将棋を教えることで、楽しみに来てくれるようになった。



## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

- ・第4土曜日での調理・配膳スタッフの確保。
- ・来てほしい家庭の子どもや保護者、生活困窮者に情報は届いているか。
- ・事故、ケガの対応

## ②今後の目標

- ・子どもの学習支援と居場所づくりを通じて、子育てを応援したり、地域の皆さんの交流と支え合いの場としたい。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
けたかくるりこども食堂運営委員会	毎月第1・3金曜日 17時30分～19時30分	こども・大人 (限定しない)	こども 無料 大人 200円	有り

## 【事業概要】

- ・会場 スマイルセンター浜村（鳥取市気高町北浜三丁目158）
- ・開設の経緯（平成30年7月開設）  
鳥取市気高町で「こども食堂をやってみよう」と思っていた有志の方が、気高町総合支所市民福祉課に開設の相談された。「ひとりではできない」と地域に「こども食堂を応援したい人」を募ったところ、十数名の有志が集まったことから、検討を重ねスタートしたものの。
- ・スタッフの状況 1回あたりの平均スタッフ数 10人（内訳・運営4人・調理4人・読み聞かせ2人）
- ・利用者の状況 1回あたりの平均利用者数 49人（内訳 こども22人、大人27人）  
保育園児や小学校低学年のこどもを育てている核家族世帯の利用が多い。
- ・食事提供の内容 地元気高町の農家などから提供された食材などを使った安心・安全な食事を提供している。
- ・食事以外の活動 絵本の読み聞かせ、地元在住の似顔絵作家を講師にした絵画教室、歯科衛生士による歯磨き指導。
- ・地域との連携  
地域の商工会が発行している機関紙に「けたかくるりこども食堂」の活動内容を掲載し、情報提供することによって、新たな利用者、食材提供者、ボランティアの発掘に寄与している。
- ・その他独自の取り組み 地域の保健師が顔を見せてくれている。施設に天然温泉があり、入浴支援を行っている。
- ・取り組みを行ううえで、大切にしていること  
地域に積極的な声掛けを行うことによって、「けたかくるりこども食堂」を認知してもらい、必要としている方に「心地いい居場所」を提供することを目指している。また、地域にあるあらゆる資源（人的資源、農産物、海産物、観光資源など）を有効に活用し、魅力を感じることによって、地域のこと、自分のことを大切に思う子どもたちを育むことを目的としている。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・「けたかくるりこども食堂」では保護者が抱える子育ての課題、子どもの課題を知り合った保護者同士が相談しあっている姿も見られる。

## ②成果

- ・行政の相談員には相談できないことが、保護者同士には相談でき、問題を解決していける力をつけてきている。利用者数の推移から必要とされる「心地いい居場所」となっていることが感じられるとともに、取り組みが経過することによって、新たな取り組みに対するニーズが出てくるなど、「けたかくるりこども食堂」の活動が進化していることを感じる。

## 【課題及び今後の目標】

- ①課題 支援を必要としている人に寄り添って支援につなげることのできる人材の確保。
- ②今後の目標 いろいろなニーズを持った人に対応できるような「心地いい居場所」となるよう進化を重ねること。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
支え愛ネットワークの会	毎月第3金曜日 18:30~20:00 プチ食堂(夏休み5回、冬休み4回、春休み6回)	小学生、中学生、高校生	無し	有り

## 【事業概要】

- ・以前から鳥取市西人権福祉センターでは毎週月曜日午後7時から小中高生対象の学習支援を実施しており、その際に飴玉やお菓子などを提供することから始まり軽食を提供していました。それを前身として現在の子ども食堂へと移行しました。
- ・毎月第3金曜日午後6時半より鳥取市西人権福祉センターを会場として1時間半程度実施しており、平均20名程度利用者がいます。
- ・スタッフは、地域住民ボランティア、支え愛ネットワークメンバー、パーソンサポートスタッフ、人権福祉センター職員の協力により常時5名程度のスタッフで運営しています。
- ・プチ食堂は、学校の夏休み・冬休み・春休み期間中のお昼に開催しています。
- ・食事提供は季節の食材を使用したり、イベントに合わせたメニューを提供するなど工夫しており、子どもたちからのリクエストに応じたメニューを提供することもあります。
- ・食事提供をするだけでなく、時季のイベントに合わせた遊びなども取り入れて楽しんでいます。(例：七夕飾りづくりなど)  
また、パーソンサポートのスタッフによる学習支援や進路相談を実施しています。



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・支援が必要な子どもに情報が届くように小学校を通じてチラシ配布を依頼、気になる子どもへのアプローチなどを実施しています。
- ・児童館勤務経験者、保育園園長経験者など支え愛ネットワークメンバーが子どもたちの話し相手になっています。

## ②成果

- ・複数回参加して食べることによって子どもたちの心がほぐれて、大人たちと会話できるようになると子どもたちが抱えている不安や思いがこぼれてきます。たわいもない話でも聞いてくれる大人が居ることに安心感が見られ、ここが居場所のひとつになっていると感じます。

## 【課題及び今後の目標】

①課題 気になる利用者が参加しきれていないと思うので、そこをどう解消していくかが課題です。

②今後の目標 事業の周知と課題解消に向けたアピール

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
高草ちいき食堂運営委員会	毎月第1(土)11:30~14:00 第3(土)10:00~12:30	子ども、大人	子ども無料 大人200円	あり

## 【事業概要】

- 開催場所は、第一土曜日〈高草人権福祉センター〉第三土曜日〈古海児童館〉
- 運営委員会は、運営委員長、事務局（高草人権福祉センター）、古海児童館職員、民生委員、ボランティア代表で構成している。
- 地域の子どもの食事と居場所を提供したいと、高草人権福祉センター職員や、センター事業の参加者の中から声が上がり、古海児童館にも声をかけ、近所に公営住宅が数棟有り、一人住まいの高齢者も多数いるので、孤立や、孤食解消に役立つと意見があり、準備会を立ち上げ「高草ちいき食堂」に至った。
- 地域との連携を図るため、地域の老人会には、「参加者に声掛けして頂く」、人権福祉センター利用の各種サークルには、「食事ボランティア・食材ボランティア」など、協力を頂いている。
- 学習支援は、食事の前、子ども達が宿題を持ち寄り、自主学習を中心に、行っている。時々、大学生や運営委員メンバーが担当している。
- 利用者は、子ども、高齢者を中心に月平均18人（9月~12月）
- 調理ボランティアは、1回あたり平均約7名
- 食材、メニュー等は、地域の食材寄付・鳥取市地域食堂ネットワークを通じた寄付を活用して、ボランティアの栄養士と話し合っていて決めている。
- 「高草人権福祉センターだより」や「チラシ」などで広報活動に取り組んでいる。



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・子どもと高齢者が一緒に食事をしたり、会話をすることにより子どもや高齢者の居場所となり、地域のコミュニティづくりに役立っている。

## ②成果

- ・子どもの学習支援にも取り組み、子どもの意欲や自信、自己肯定感の回復や向上を図っている。
- ・地域の民生児童委員さんに協力していただき一人暮らし高齢者も参加され、子どもと一緒に時間を過ごしている。

## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

- ・土曜日の昼間に実施しているが、小中学生のクラブ活動等で参加できない子どもがいる。

## ②今後の目標

- ・一人でも多くの地域住民に参加して頂き、一人一人に寄り添った支援をしていきたい。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
ぷろじえくと えん	第2、4木曜日 17:30～20:00	小、中学生とその保護者	大人200円、子供100円	有

## 【事業概要】

(開設) 平成30年5月開設。平均30名程度利用(9月より20名から30名へ増員)。同じ方の利用が多い。

(スタッフの状況) ぷろじえくとえんを中心としたボランティアスタッフが常時5名程度で運営している。

(食事提供内容) ぷろじえくとえんを中心としたボランティアスタッフで調理を担当。寄附された食材を中心にしたメニューを提供。

- ・寄附：地域住民、他の子ども食堂、とっとり子ども未来サポートネットワーク など

(食事以外の活動) 居場所の提供、宿題等学習支援、保護者の相談

(その他独自の取組) 絵本の読み聞かせ、季節の行事(クリスマス、正月)、イベントなど

- ・イベントは、とっとり子ども未来サポートネットワークのサポートを受けて、鳥取県立博物館美術振興課の館外普及事業を活用し、ワークショップ「紙コップ10000個で街を作ろう!」を開催した。子ども達と保護者が、紙コップ10000個を並べたり、積み上げたりして街をつくり、紙コップの街の好きな場所ところどころにライトを置いて記念撮影を行った。子ども達は、自由に想像力を働かせながら、真剣に紙コップを積み上げて街をつくり、笑顔で楽しい時間を過ごしました。

(大切にしていること) 笑顔で帰っていただくため、最後に必ず絵本の読み聞かせをしている。

(変わってきたこと)

- ・宿題をしている子を見て、他の子どもも自主的に宿題を始める姿が見える。
- ・月2回の子ども食堂に「絶対行きたい」と楽しみにしている子どもが増えている。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・創作活動、文化芸術体験のイベントを実施し、イベントの際には、大学のサークルや鳥取県立博物館と連携して実施した。
- ・町福祉課職員が、こども食堂に参加し、運営等の状況把握や困りごとを一緒に検討している。

## ②成果

- ・イベントを実施して、子ども達が美術に興味・関心を持つきっかけとなった。
- ・行政との密接な連携により、参加に繋がったケースがある。



## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

- ・運営資金の安定した確保

## ②今後の目標

- ・宿題だけでなく、様々な学びの場としたい。
- ・伝統行事、創作活動及び子ども達が主体的に計画したイベントを行いたい。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
宗教法人極楽寺	水曜日・放課後～19時30分	幼児～高校生、その保護者	幼児・小学生100円、中高生200円、大人300円	あり

## 【事業概要】

- ・開設時期…平成30年1月31日
- ・1回あたりの平均利用者数…約40名
- ・利用者の傾向…子どもは小学生が多い。世帯で見ると、ひとり親世帯、核家族世帯、移住世帯が多い。
- ・スタッフの状況…地域住民ボランティアや学生ボランティアの協力により常時8名程度のスタッフで運営。補助金のおかげで安定したボランティアの協力が得られている。
- ・食事以外の活動…宿題などの学習支援、将棋、卓球、サッカーなど。季節の行事（かき氷作り、運動会練習、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーなど）やイベント（グランドゴルフ、マジックショー、木工教室、智頭町のトランプなど）も実施。
- ・食事提供内容…地域住民のボランティア（栄養士や調理員の資格を持っている方が中心）が調理を担当。食材は地域住民や町内店舗からの寄附、とっとり子ども未来サポートネットワークを通じた寄附を活用。寄附された食材でメニューを検討している。
- ・地域との連携…地域住民が将棋や大正琴など特技を教えてください。智頭町立図書館からの本の寄付。農林高校から傘立てのプレゼント。
- ・その他独自の取組…コーディネーターを配置して気になる利用者について行政や学校と連携している。生活困窮者支援事業、学習支援事業の紹介など。
- ・取組を行う上で大切にしていること…スタッフでふりかえりの時間を設け、気になる利用者への接し方についてうちあわせる。地域住民や店舗など地域の協力者を開拓する。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

お米や野菜などを中心に地域住民から安定した食材提供が得られている。  
児童クラブと同じ建物で実施しているため、お互いの困難事例などを情報交換しやすく連携ができています。  
コーディネーターの配置により行政や学校とのつながりが強く、困ったときにスムーズに必要な制度につながっている。

## ②成果

学校や行政などと連携することにより、学校側が気になっている子どもを利用につなげたり、気になる利用者を行政につなげたりすることができた。  
また、連携により、より必要な子どもの利用につながっている。学習支援事業とも連携しており、相互の事業の紹介をし、利用につながっている。宿題の習慣がなかった子どもが家でも宿題をするようになった。家で少食の子どもが食堂の雰囲気によりよく食べるようになった。食堂で嬉しそうに食べる子どもをみて、母が家で子どもに食事を作るようになった。高校生ボランティアの対人能力や社会性などの成長につながった。

## 【課題及び今後の目標】

①課題 必要な個別支援につなげることができていない事例がある。学生ボランティアの確保。

## ②今後の目標

ボランティア、特に学生ボランティアの開拓に力を入れていきたい。（カリキュラムに入れ込んでもらえるような働きかけをおこなう。）  
地域住民の特技を活かしたイベントを増やす。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
社会福祉法人愛光会	月2回 金曜日 17:30～19:00	ひとり親家庭の児童及びその保護者 学習支援を利用している児童 本事業に関心のある方	子ども無料 大人200円	有

## 【事業概要】

2017年6月30日 初回開催以降月2回の頻度で開催。2018年1月 町の補助事業となる。一回あたりの平均利用者数 32名

**利用者の傾向:**小学生・中学生は子どもだけで利用。幼児は親子で来ている。近隣のひとり親世帯の親子、独居高齢者の利用有。

**スタッフの状況:**地域住民・学生等の有償ボランティア 5名の登録あり。3名から4名で運営。

**食事以外の提供:**同じ敷地内の別棟で学習会を行っている。

**食事提供内容:**地域や法人職員から米・野菜・果物の提供がありそれを活用した献立。旅館業を営む業者から魚料理、揚げ物などを定期的に取り寄せている。またその業者を介して他の業者からの食材提供もある。町社協やとっとり子ども未来サポートネットワークを通じた寄付を活用。

**地域との連携:**この事業に対して地域の方々の関心が高まり開催するたびにお米や野菜を提供していただいている。地域の関係者より子どもたちへの言葉かけや片付けの奉仕をいただいた。地元のスーパーとの提携により月1回食材を提供してもらうことになり、支援のネットワークが広がりがつつある。

**大切にしていること:**衛生管理。子どもがお腹を満たし笑顔あふれる空間づくりをすること。継続していくこと。

**学習支援:**毎週月・金曜日①16時～18時(小学生対象)②18時30分～20時30分(小学生5年生～中学生対象)土曜日9時～11時(小学生～中学生)対象に、学生や元教員6名で宿題のサポートを中心に個別対応で実施している。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

地元でとれた新鮮な食材を活かした盛りだくさんのメニュー。たくさんの笑顔に出会える。

母子生活支援施設と連携し当該施設を含め専門の支援機関に繋げることができる。

## ②成果

みんなと一緒に食べることで家庭では食べないものを食べる事ができた。特に低学年・幼児で顕著。好き嫌いの克服に一役かった。

学習支援との相乗効果が生まれた。学校に行けなかった児童が食堂と学習支援を利用。その後学校に行くようになった。

必要に応じて、関係機関(八頭町福祉課・保健課・教育委員会等)と情報共有を行ったり、実際にこども食堂への来訪や見学など、顔の見える関係が強まった。毎回食堂に来て、みんなでおいしいもの食べて、笑って過ごす中で子どもや世帯が元気になっていく姿がある。

## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

毎月チラシの配布や機会があれば八頭町広報に掲載、開催日の2～3日前に看板を施設前に掲示している。潜在している利用希望者に的確に情報が届いているのか心配である一方、周知が過ぎると一時に利用者が急増し対応しきれない場合があることも懸念される。

## ②今後の目標

ひとり親世帯に限らず、地域で暮らす皆さんの居場所となること。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
NPO法人ワーカーズコープ さんいんみらい事業所	毎週金曜日18時~20時	子ども、大人	子ども無料(中学生まで) 大人200円	あり

## 【事業概要】

2018年1月から郡家西地区公民館で開催。平均利用者数20名。親子での利用がほとんどで（ひとり親世帯も）、未就学児から小学校低学年の利用が多い。中学生が一人で利用するときもある。

鳥取大学生や看護学生のボランティア（有償）が毎回2~3名参加。地元の高校生のボランティア（有償）も3名ほど時々来てくれる。また、地域住民のボランティア（無償）の参加も増えて、現在は2~4名の参加があり、1回につきボランティアだけで、6名程の参加がある。

食事以外も大学生による学習支援を実施しているが、未就学児や低学年の子が多いので、毎回というわけではない。また、行事イベントとして、地域の図書館やサークル団体にご協力いただき、読みきかせや行事にまつわる工作（クリスマスツリー）なども実施している。今後は、図書館に配本サービスを依頼して、子ども食堂利用者に本を読んでもらう活動も実施する予定。

食事提供内容は、一般ボランティアと担当者や学生ボランティアなどと調理を行い、配膳からあと片付けまで行っている。他の子ども食堂では、利用者にも調理などの手伝いをしてもらうところもあるようだが、衛生管理上、なるべく多くの人に触れることを避けたいので、食事提供に関して言えば、調理スタッフだけで対応している。食事以外の最低限の準備や後片付けなどは、利用者に行ってもらえることがある。食材に関しては、とっとり子ども未来サポートネットワークからの提供品を上手に使えるようなメニューを出したり、地元の方から頂いた米や野菜を使ったメニューを考案している。

毎月チラシを作成し、日程と学習支援などの情報提供を行っている。また、SNSを使って、メニューや毎回の様子をあげている。

調理するうえでのルールを調理スタッフには徹底して指導をしている。学生ボランティアには、積極的に利用することも達と関わるように指導している。地域住民のボランティアが増えていったのは、誘い合って頂いた経緯があるので、それをこれからもお願いしていく。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・困っている子などに来てもらうように、八頭町福祉課の子ども食堂担当者と報告、連絡、相談を行い、寺子屋みらいこおげの周知をしてもらっている

## ②成果

- ・地域住民のボランティア参加をお願いするために、八頭町役場、八頭町社協に相談をし、八頭町ボランティアセンターに登録している方に「寺子屋みらいこおげ」を紹介して頂いたり、チラシを配って頂いた結果、地域住民の方のボランティア参加が増えてきた（毎回1~2名の参加がある）
- ・生活困窮家庭の高校生を3名有償ボランティアとして参加してもらうことができた。
- ・ほぼ毎回、気になる家庭の中学生に子ども食堂に来てもらうことができた。



## 【課題及び今後の目標】

- ①課題：学習支援の更なる充実（現在は宿題を見るだけ）、困り事、悩みなどの相談を受ける体制が不十分、本当に必要としている子が利用できているのか？の見直し。
- ②今後の目標：地域住民の方による子ども食堂「寺子屋みらいこおげ」の運営、八頭町の他の地域での子ども食堂運営

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
一般社団法人さんさんネットワーク倉吉	毎月1回	小学生とその保護者	200円	有

## 【事業概要】

- ・平成30年3月、子どもたちが安心して、地域と交流できる居場所として開設。小学校PTA役員の有志、鳥取短大生、地元中学生がボランティアスタッフとして支援し、毎回平均30名程度の親子が利用している。ボランティアスタッフは主に口コミで協力要請を依頼した。
- ・会場である「倉吉市農村環境改善センター」で実施している放課後児童クラブと連携し、放課後児童クラブ利用者を中心とした利用があり、保護者の迎えが遅くなくても安心して過ごせる場所となっている。また、希望があれば保護者にも食事作りに参加してもらっている。
- ・とっとり未来サポートネットワークや倉吉市社会福祉協議会、最寄り子ども食堂から提供のあった食材を調理するなど、食育も考えた食事づくりを行っている。
- ・子どもたち、保護者、地域のボランティアと一緒に調理をし、食事づくりのコツを学んだり、できあがったメニューをみんなで会食する楽しさを味わっている。そして、子どもたちにとって望ましい環境づくりを形成し、食べることや作ってくれる人への感謝の心を養っている。
- ・倉吉北高等学校調理部による「高校生レストラン」を不定期で開催。倉吉北高で「高校生レストラン」が開店されるという情報を聞き、子ども食堂への協力を打診すると快く承諾して下さった。それがご縁で不定期で開催するようになり、子どもたちは高校生にアドバイスを受けながら調理に挑戦している。



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・食事は誰にとっても大切な活動、食育という視点と調理・片付け等の生活習慣が身についていくよう、楽しく食事づくりを行っている。
- ・食事づくりとそれをみんなで楽しく味わうことで、親子のふれあい、地域の大人とのふれあいにつながっている。

## ②成果

- ・新鮮な季節に応じた食材に触れたりすることで食育につながった。
- ・実際に大人と一緒に食事づくりし、大人に学びながら調理の一工程でも自分で試してみることで、作る喜びと自信を味わうことができた。

## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

放課後児童クラブ利用者を中心とした利用となっているため、さらに居場所を必要としている家庭に利用してもらえるようにする。

## ②今後の目標 地域へ幅広く利用をよびかけていく。

運営団体名	開催日・開催時間	対象者	利用料	食事提供の有無
法勝寺地区地域振興協議会	毎月最終土曜・12時～13時	子どもとその保護者	100円／食	有り

## 【事業概要】

- ・平成29年度開設、開設場所：法勝寺児童館、1回あたりの平均利用者数：20人、利用者の傾向：乳幼児～小学生とその保護者
- ・スタッフの状況…地域のボランティアにより常時3名程度の調理スタッフ及び地域振興協議会のスタッフが児童館職員の協力を得て運営。
- ・利用料は人数把握及びアレルギー等の確認のため、協議会事務所でチケットを購入していただいている。委託料で実施しているため、いただいた利用料は町に後日納入。
- ・食事提供の内容…地域のボランティアが子どもたちの健康づくりを視野に献立・調理を担当。食材は地域からの寄付、とっとり子ども未来サポートネットワークを通じた寄付も活用しながら、地産地消に努めている。
- ・地域との連携…調理の地域ボランティアも一緒に食卓を囲み、大家族の食卓として地域の方との世代間交流に努めている。
- ・その他独自の取り組み…子育て支援課と連携し広く周知するとともに必要な家庭への声掛けを行う。
- ・取り組みを行う上で大切にしていること…定期的に関係者で振り返りを行い、状況に応じて対応を協議している。また、地域の大人との関わりにより子どもたちの豊かな育ちを支える取り組みについて留意している。



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

## ①アピールポイント

- ・定期的に協議会（事務職員及び調理ボランティア）、児童館、子育て支援課と連絡会を行い、事業について必要な修正等を行っている。
- ・町へも参加者を報告し、必要な方への声掛けを連携して行っている。
- ・コミュニティスクールや配食ボランティア等でも活躍中の核となる調理ボランティアに、趣旨を賛同して頂き協力体制がとれた。
- ・児童館内で実施していることから、子ども食堂の実施場所の環境整備・雰囲気作りをはじめ、来館児童や保護者への声掛けを行う等広く利用していただけるよう直接声掛けができています。

## ②成果

- ・平成30年度から保護者への提供も始めたことから、若い父母と子どもでの参加も増え、ボランティアスタッフとの交流も見られる。
- ・参加する子どもと協議会職員との顔の見える関係ができ、日々の挨拶・声掛けなど交流が増え、子どもたちの安心・安全で豊かな育ちを地域として支えている。

## 【課題及び今後の目標】

## ①課題

- ・参加者の偏り、固定化の傾向があり、全町的な取り組みとなっていない。

## ②今後の目標

- ・補助金による運営となっているが、地域の食材提供等を受け、自立した実施としていきたい。

## 【事例紹介】

自治体の取組み

# 【鳥取市】地域共生社会をめざすこども食堂を核とした鳥取市「地域食堂」ネットワークの取り組み

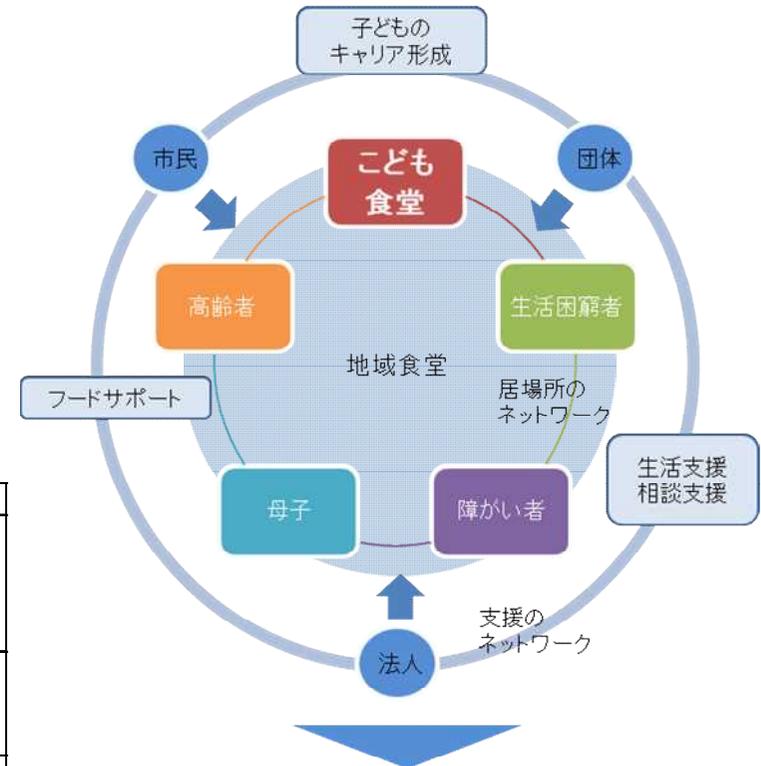
## 【事業概要】

### ◆「地域食堂」ネットワークの取り組み

- ・現在、鳥取市において「こども食堂」をはじめ、様々な世代や対象に応じた食堂が展開され始めている。
- ・これらの食堂を、多角的な社会的居場所＝「地域食堂」として位置付けネットワーク化し、相互補完的に展開することによって、全世代、全対象型地域包括支援のための重要な社会資源、社会的仕組みとして機能する。
- ・さらに、「地域食堂」とそれを支援する地域の人々との社会的なつながりをつくり、出会いづくり、つながりづくりのための「空間づくり」の仕掛けとする。※「地域通貨」の活用
- ・「助けて」と言わなくても、身近な関係づくりのなかで、相互に気づきあうことを重視した支援。「つばやき」を支援につなげる仕組みづくりとする。

### ◆鳥取市のかかわり

運営主体（4要件）		鳥取市の取り組み（3支援）			
「地域食堂」の要件	「居場所であること」	継続していくための環境づくり等	相談支援	「地域食堂」の取り組みにより、課題を抱える利用者の状況やつばやきを相談支援に引き上げ、困難な課題を抱える世帯を早期に発見し、困難が複合化、深刻化しない段階で世帯全体への包括的支援を行っていくためのアウトリーチの場とする。	・市職員の参加 ・相談支援員の派遣
	「『食』を提供すること」		ネットワークづくり	地域食堂同士が食材の確保等も含めて相互補完的に展開することで、重要な社会資源となることを目指すことと、あわせて、地域食堂とそれを支援する人々との社会的なつながりづくり・ネットワーク化を進める。	・ネットワーク形成（事務局運営） ・人や資源の開拓
	「身近な相談者（学習支援）」		地域づくり支援	地域住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる社会資源となる「地域食堂」への運営にかかわる支援を行う。「支え手」「受け手」という固定的関係ではなく、お互いに支え合う場として、さらに人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながる地域社会づくりに繋げる。	・補助金制度の創設 ・繋がりコーディネーター ※地域福祉計画への位置付け
	「多様な人々が関わること」				



**【地域づくりへ】**  
 多角的な社会的居場所を展開するための地域ネットワークの構築  
 「支える、支えられる」という一方的関係ではなく、「相互に支え合う」地域の構築

### ◆「地域食堂ネットワーク」組織概要

名称	鳥取市 地域食堂ネットワーク
設立	平成29(2017)年11月27日 設立総会
目的	本会は、「こども食堂」を核とした、生活困窮者や高齢者、障がい者など様々な立場の「地域食堂」が継続的・安定的に運営を行うため、「食堂」を支援する団体とも連携し、互いに支え合う仕組みを構築し、もって地域共生社会をめざす取り組みに資することを目的とする。
活動	(1)情報交換会の開催及びネットワークへの参加呼びかけ (2)寄付や提供食材等の共同管理 (3)衛生管理に関する情報提供や講習会の開催 (4)ボランティア等の人材確保の支援 (5)全体事業の実施 (6)立上げに関する支援 (7)活動の情報発信 (8)その他目的達成に必要な活動
構成	(1)地域食堂を運営する団体等 設立時9団体・法人 → 2/22現在 15団体・法人 (2)地域食堂を支援する団体等 設立時10団体・法人 → 2/22現在 18団体・法人
役員	共同代表（運営団体）パーソンサポートとっとり 代表 山根 恒 （支援団体）社会福祉法人鳥取福祉会 理事長 松下 稔彦 会計監査（運営団体）江山こども食堂運営委員会 代表 福田 和之
事務局	鳥取市中央人権福祉センター

### 【設立総会 記者発表資料】

本市では、平成29年3月に「鳥取市子どもの未来応援計画」を策定し、「地域社会とのつながりや居場所づくり」を施策の柱として、「こども食堂」への支援を行っています。（中略）また、こども食堂以外にも、高齢者や生活困窮者など様々な立場の「食堂」が開設され始めており、今後は、これらの「食堂」が継続的・安定的に運営を行うため、「食堂」を支援する団体とも連携し、互いに支え合う仕組みを構築することが必要と考えます。これを踏まえ、本市では、こども食堂の運営団体、支援団体と一致協力してこども食堂を核とした「地域食堂ネットワーク」を立ち上げることとし、設立総会を行います。

## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

### ◆「地域食堂」ネットワークの取組の効果・成果

- ・「居場所+食の提供」により、“一緒に食べたい”、“あの人が自分のために作ってくれた”など、新たな人と人の関係性が生まれ、孤立感の解消につながっている。
- ・食事を提供するまでにも、野菜をつくる、食材を提供する、調理する、運ぶ、場をつくるなど多くのプロセスがあり、様々な関わり方があるため、地域の多様な人が関わり、「役割」「出番」をもつことができている。
- ・産業カウンセラーなどを含む専門職を派遣しカウンセリング機能を強化することで、「こども食堂」をゴールとせず、食事をしながらの“つぶやき”を相談に引き上げ、困難の早期発見と解決を図るきっかけとしている。
- ・食堂の運営は、行政直営ではなく民間（地域）による運営とすることで、行政では即時対応が難しいことや制度の狭間の問題も、利用者相互の助け合いや関係者により上手くカバーすることができている。
- ・「子どもを中心とした地域食堂」と位置づけ、行政施策として進めることで、従来の福祉分野に限らず、地域の産業界、金融機関、農業関係団体等からの支援にもつながっている。また、この取り組みを地域包括ケアシステム構築、地域共生社会実現のための取り組みとして位置付けている。

## 支援の広がりから地域づくりへ！

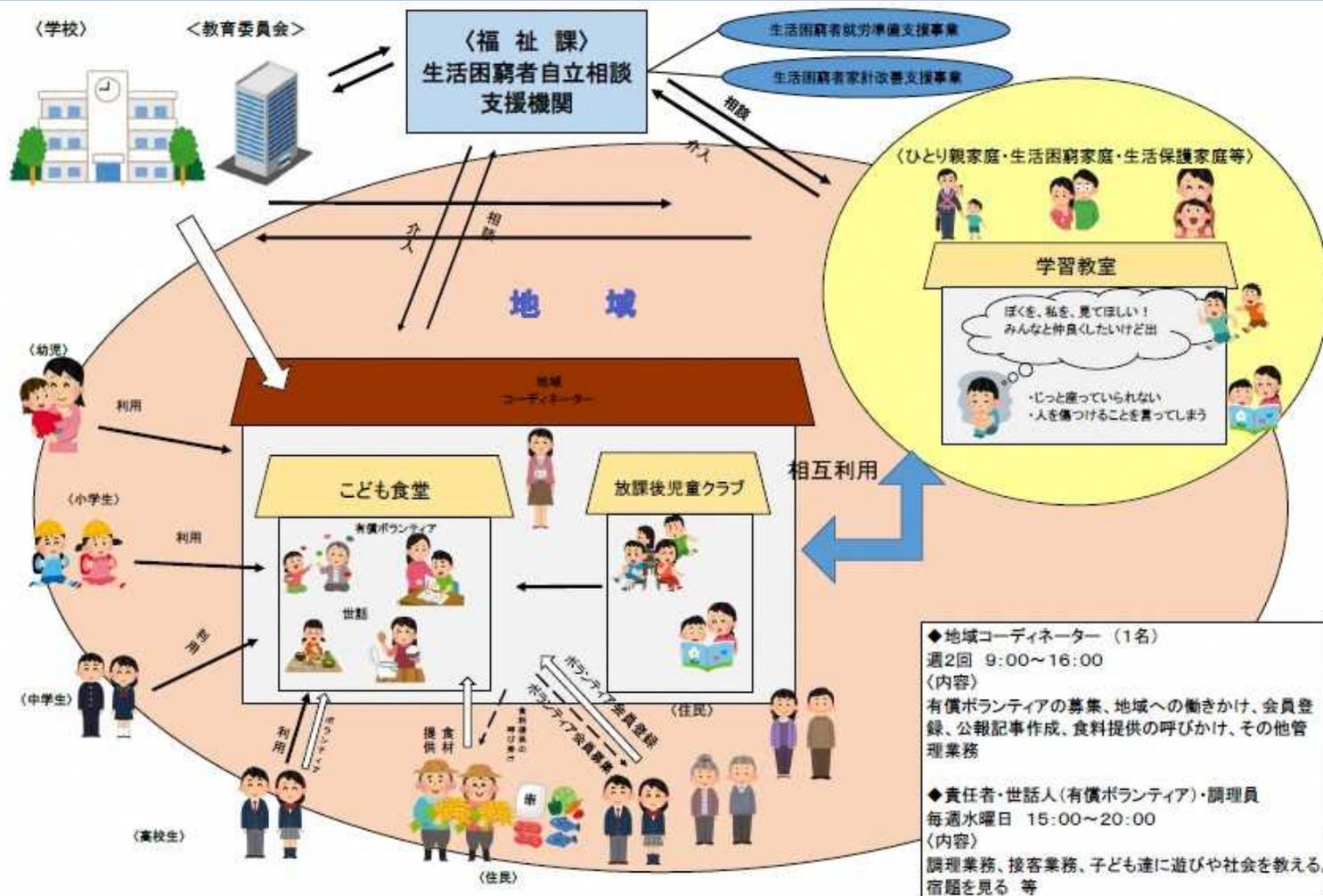


## 【課題及び今後の目標】

- ◇ネットワークとしての可能性に記載した事業の実施。
- ◇こども食堂の位置がわかるマップづくり。
- ◇東部地区全体の交流会、研修会等の独自事業の開催。

## 【智頭町】子どもの居場所を中心にした町の取組み

## 【事業概要】



## 【モデル事業としてのアピールポイントと成果】

- ①アピールポイント 智頭町では、児童クラブと同じ建物内で週1回子ども食堂を開催していることから、児童クラブ利用後に利用される家庭も多いです。コーディネーターを配置しており、教育課や学校との連携も良好で、気になる子どもに積極的に声かけをしています。また、こども食堂でも学習支援を行っていますが、個別に近い形が良いお子様は、学習支援事業へ導いています。
- ②成果 子ども食堂と学習支援の連携がうまく出来ており、両方利用している子もいれば、学習支援のみの利用、こども食堂のみの利用もあります。かわりでは、家での様子が伝わって来やすく、貧困や虐待等の発見が早期に出来、見守りや時には介入が可能になっています。智頭町は鳥取市に通勤している家庭も多く、帰りが遅くなるので家事負担の軽減にもなり、精神的にも余裕が出来るなど重宝がられています。

## 【課題及び今後の目標】

- ①課題 ボランティアの確保。運営スタッフの負担が大きくなりすぎないよう配慮が必要。
- ②今後の目標 定着。いつでも利用できるという安心な場所の提供。なんでも相談コーナーやリサイクルコーナーにも取り組みんでいきたい。